

上ノ原小学校は、昨年度よりコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）として、「地域とともにある学校づくり」を推進しています。

創立 75 周年!



## 2年目の「コミュニティ・スクール」が始動

コミュニティ・スクールの導入によって目指す学校像は「ごきげんな学校」です。児童にとって「よろこびのある毎日が遅れる学校」、保護者・地域にとって「安心して任せられる私たちの学校」、教職員にとって「ごきげんな職場」を目指します。

### 上ノ原小学校が目指す取り組み：目指す学校像（ビジョン）

#### 【ごきげんな学校】

**児童にとって** よろこびのある毎日が送れる学校 

- 【日々】
- ・学んで分かるよろこび
  - ・友達と関わることのできるよろこび
  - ・心を解放して体を動かすよろこび
- 【長い目で】
- ・自分の成長が実感できるよろこび
  - ・自分の存在が認められるよろこび
  - ・自分の将来に希望がもてるよろこび

**保護者地域にとって** 安心して任せられる私たちの学校 

- 【よく見える学校】
- 教育活動の積極的な発信  
来校機会確保, 学校 HP, すぐへの活用
- 【安心できる学校】
- 素早く, 丁寧で誠実な学校
- 【私たちの学校】
- 協力, 協働の取組

**教職員にとって** ごきげんな職場 

- 【風通しのよい明るい職場】
- まずは挨拶, コミュニケーションをしっかりと
- 【やりたいことができる職場】
- できない, やらない理由を作らずにチャレンジ
- 【成長できる職場】
- 学び, 成長する機会の確保, 職に誇りと責任を



## 学校運営協議会 委員紹介

1	会長	清水 美千代
2	副会長	小川 克久
3	委員	有馬 美穂
4	委員	遠藤 晃弘
5	委員	加賀美 真由美
6	委員	箱崎 高之

1	事務局	有馬 英子
2	事務局	加藤 恵吾
3	事務局	三浦 尚介
4	事務局	小松 陽子

(敬称略)

今後の学校運営協議会の日程は、学校のホームページでお知らせします。傍聴希望の方は学校までご連絡ください。



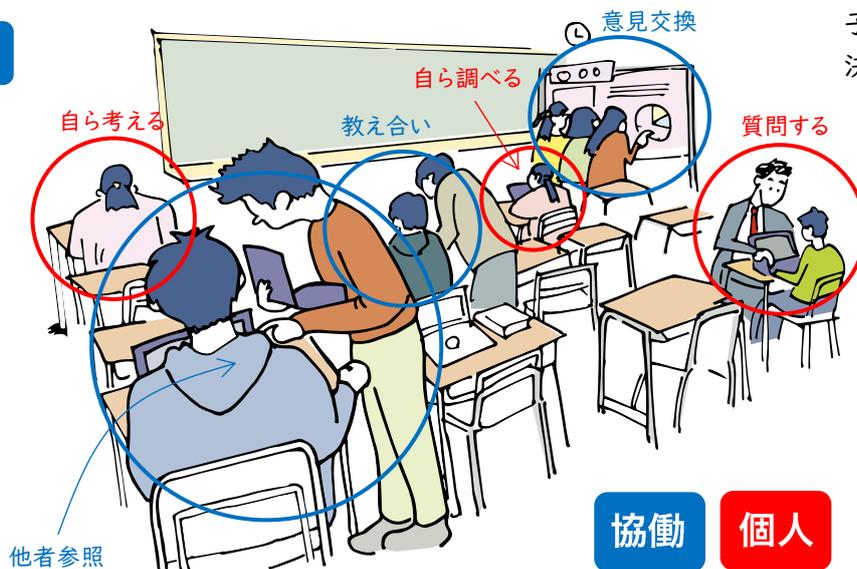
## 個別最適で協同的な学びの充実による授業改善 上ノ原小学校の授業はいま

授業に注目!

今年度、上ノ原小学校では、「子どもを主語にした学習」を推進しています。高学年を中心に今までの授業とは少し違う姿が見られるようになりました。学校公開にて、ぜひその様子を参観してください。

### 授業の様子

子ども一人一人が課題をもって、自分自身の判断で調べたりまとめたり、協働の活動をしたり適切な場所を選んで学習します。先生は伴走者として関わります。



子どもが自分の力で決めて授業を進めます。

興味関心は？  
計画は？  
課題は？

学習の過程（情報収集→整理分析→まとめ→発表）は？

ひとりで学ぶ？  
誰かと学ぶ？

【保護者】私が子どもの頃の授業は、先生が黒板の前に立って教える「一斉授業」だったけど…。今は先生が一方向的に教えるだけではなく、子どもたちが、子ども同士で教え合い、学び合い、モバイル端末も活用して自ら学びを進めるのね!



「子どもを主語にした学習」は、教育において子どもたちを中心に据え、彼らの興味や個性を尊重しながら学びを進めるアプローチです。学習指導要領では、これからの学校教育に、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることなどを求めています。

主体的・対話的で深い学びを実現するために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実が掲げられています。そこでは、子どもが「学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげる」ことや、教師が「学習の進め方（学習計画、学習方法、自己評価等）を自ら調整する力を身に付けさせることを一つの柱として行う」ことの可能性が指摘されると共に「多様な学習の進め方を実践できる環境を整えること」の重要性が指摘されています。これらのことを実現していく一つの方法として「単元内自由進度学習」や「複線型授業」が進められています。

### 単元内自由進度学習

単元内自由進度学習は、教師が計画する学習内容のフレーム内で、子ども一人一人が課題を自己決定し、計画を立てて自分の学習速度で進め、その過程で友達と相互に作用しながら学びを深めていくことを目指したものです。

### 複線型授業

複線型の授業は、教員の指導を受ける子もいれば、友達同士で学び合う子、あるいは個人で学習を進める子もいるといったように、同じ教室で複数の学びのスタイルが同時に展開される授業です。複線型授業を支えるツールとして一人1台のモバイル端末が有効活用されています。



すべての授業が複線型授業になるわけではありません。特に低学年の基礎・基本はこれまで通りの一斉授業が効果的であることが指摘されています。学年や学習内容等に応じて先生方による工夫が行われています。